

第2回 「玉来ダム検証における検討の場」会議 議事要旨

【開催日時】 平成22年12月22日（水）13：30～16：00

【開催場所】 竹田市役所3階 第1会議室

【出席者】

小松座長、諫本委員、佐藤委員、島岡委員、中野委員、三宅委員、足立委員、菅委員、後藤（泰）委員、丹委員、早川委員、甲斐委員、渡邊委員、後藤（万）委員、工藤委員、吉田委員、児玉（修）委員[代理出席：田部]、畑元委員[代理出席：黒田]、阿南委員、児玉（龍）委員、進委員、山本委員

【議事要旨】

1) 「第1回検討の場」における討議内容の確認と「森林保全」の効果について

- ◆ 前回議事要旨について確認し、了承された。
- ◆ 「森林の保全」の効果について、事務局より説明を行い、今回の詳細検討から除外することで了承された。

2) 玉来ダム検証について

- ① 一次選定した治水対策案（複数案の組合せを含む）の詳細検討結果について
- ② 7つの評価軸による総合評価及び順位付けについて

- ◆ ①、②について、事務局よりパワーポイントを用いて下記の事項を事務局提案として説明した。

また、今日の討議結果を受けて、12月24日から1ヶ月間で住民からの意見募集を行うことと関係地方公共団体の長などから意見聴取を実施することを報告した。

- i) 評価軸による総合評価としては、各評価軸に細項目を設定するとともに、評価軸及び細項目毎に、重要度に応じた重みをつけた配点を行い、100点満点で評価することを事務局提案した。

- ii) 総合評価の手順としては、7つの評価軸の細項目毎に4段階の評価（◎、

○、△、×) を実施し、◎… 100%、○… 75%、△… 50%、×… 25%として点数化し、それを集計し、合計をもって総合評価とし、総合評価点の大きな順に順位付けを行うことを事務局提案した。

iii) 治水対策案の組合せについて、その理由を含め、説明を行った。

3) 詳細検討結果及び総合評価(案)に対する討議

◆ 2) の①、②について、各委員から以下の意見・質問があった。

＜総合評価（考え方）について＞

- ・ 学識経験者や行政関係者から「コスト」、「持続性」の維持管理の考え方や「コスト」のダム中止の場合の費用、「環境への影響」の“景観・人と自然とのふれあい”の考え方などについての質問があった。
- ・ 地域関係者から「地域社会への影響」について、“住民の不安感解消”を評価対象として加えるべきではとの意見があった。（これについては、安全度で評価することとなった。）

＜事務局の回答＞

- ・ 質問については、「ダム事業の検証に係る検討に関する再評価実施要領細目」に基づいていることや事務局の評価の考え方について回答をし、理解を求めた。

＜総合評価（評価軸の配点）について＞

- ・ 学識経験者、地域関係者、行政関係者から「コスト」より「安全度」の配点を高くするか同等とすべきとの意見が出た。
- ・ 座長から配点を増やすことは容易だが、減点することは判断が難しいので、仮に120点満点となっても100点満点に換算すればよいのではないかと提案がなされた。
- ・ 各委員から、「安全度」を中心として「持続性」、「地域社会への影響」、「環境への影響」に加点の要望があり、座長より事務局にて要望を踏まえた評価軸の加点(案)を後ほど提案するよう指示がなされた。

<治水対策案の評価について>

- 地域関係者から、「現行案以外は実施期間が長すぎる。」「地元は明日にでも完成してもらいたいことからダム案が最良。」との意見があった。
- 学識経験者から「柔軟性」での放水路の評価が低いとの修正提案（×→○）があり、了承された。

○事務局より各評価軸の配点見直し及び評価見直し案を提示し、各委員の了承を得た。

【その他】

- ◆第3回会議を平成23年2月4日（金）と決定した。